

四国大学アセスメントポリシーによる情報の公表

令和6年4月
四国大学教育改革推進委員会

- (1) 四国大学・四国大学短期大学部では、これからの社会を担い、新しい時代を切り拓いて社会をリードする人材を育てるため、これまで実施してきたカリキュラムを進化させ新しい時代にあった教育プログラムを策定し、2020年4月から開始しています。
- (2) このプログラムの教育の質を高めるためには、本学の三つの方針※1（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入の方針）に基づく体系的で組織的な大学教育を、プログラム共通の考え方や尺度（アセスメントポリシー※2）を踏まえて適切に点検・評価し、継続的な改善に取り組む必要があります。
- (3) 本学のアセスメントポリシーは、三つの方針を基に学生の学修成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用するとともに、大学全体の教育成果を広く社会や企業等の外部からの理解を得るため、その成果等を毎年公表することとしています。

※1 三つの方針（3ポリシー）の内容については以下のサイトをご参照ください。

<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/3policy/> （四国大学 Top > 教育・研究 > 3つのポリシー）

※2 アセスメントポリシー … 学生の学修効果（アセスメント）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等について定めた学内の方針。

【入学前・入学時の検証・評価について】

四国大学では、アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）に則した入学試験となっているかについて、学内での調査結果をもとに次の2項目について検証・評価を行っています。

① 各入学試験の成績

（1）総合型選抜

総合型選抜の入試には、高大接続入試（セミナー活用タイプ・活動履歴活用タイプ）・自己実現入試・分野別入試と3種類の入試がある。選抜は、それぞれ学部によって異なった方法をとっている。ここでは、選抜方法の二つの要素を取り出して相関関係を数値化し、その特徴を検証した。

『面接と調査書』の相関関係を見ると、「高大接続入試（活動履歴活用タイプ）」の生活科学部を除く全学部において、ほぼ相関が認められる。また、『小論文と調査書』では、対象者の少ない「高大接続入試（活動履歴活用タイプ）」の看護学部を除く、全学部でほぼ相関が認められる。

（2）推薦入試と一般入試

推薦入試は、筆記試験、面接、調査書及び推薦書等を総合して選抜している。推薦入試では、すべての学部において、相関が認められる。また、文学部と経営情報学部では、幅広く度数分布をしており、多様な学生の実態が伺える。

一般入試は、筆記試験と調査書によって合格者を決定している。看護学部では、調査書は他の学部に比べて全体的に高いものの、筆記試験の成績には多少のばらつきがみられる。全体的にみると、対象者の少ない短期大学部を除く、全学部において良好な近似線となっており、相関関係が認められる。

< 検証・評価結果 >

各種入学試験成績については、筆記試験においては、各教科の平均点目安とする60点を中心に散らばっている。小論文については、合否ラインの目安として60点を設定しているが、70～80点を中心に得点しており、妥当な結果であると考えられる。

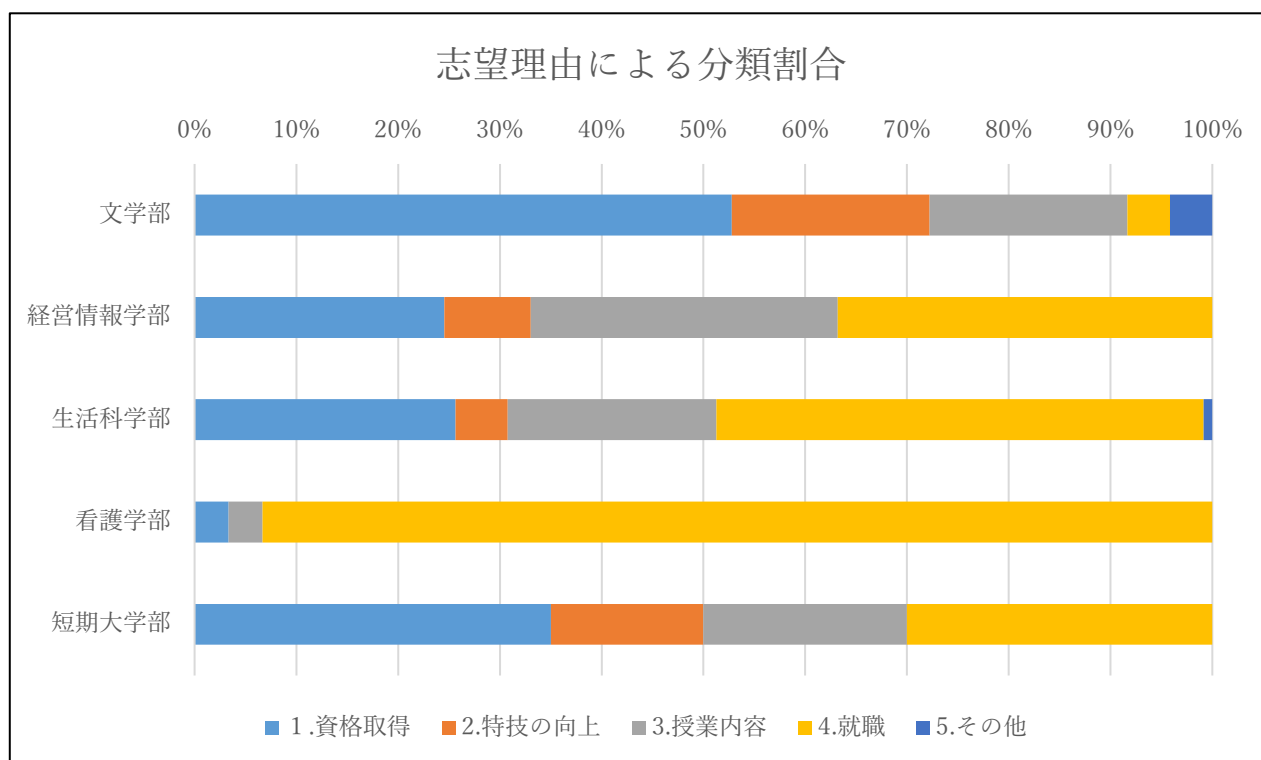
入試成績と調査書との相関関係については、おおよその学部において右肩上がりの近似線を示しており、調査書と正の相関を示している。

② 志願理由

総合型選抜入試における受験生の志願理由について、志願書に書いている志望動機を次の5つに分類しました。

1. 資格取得（教員、公務員、司書など）
2. 特技の向上（書道など）
3. 授業内容（大学の授業に興味がある）
4. 就職のため
5. その他（文化交流、ボランティア活動、他活動など）

志望動機別に分類した学部毎の志願理由の割合は次のとおりです。



< 検証・評価結果 >

看護学部や生活科学部の実学を基本とする学部では、「4. 就職のため」を第一志望の理由としている受験生が多くみられる。一方、文学部においては、教員や司書資格等の取得を目指し、「1. 資格取得」を第一志望とする受験生が多くみられた。また、短期大学部では、それぞれの志望理由がほぼ平均的な分布になっているとともに、経営情報学部においても「2. 特技の向上」を除いた3項目がほぼ平均的な分布となった。

「1. 資格取得」についても最終的には「4. 就職のため」と考えられるため、大学として就職指導に注力し、就職率を限りなく100%に近づけることが重点課題である。

【在学中の学修状況の検証・評価について】

四国大学では、在学中にカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した学修となっているかについて、次の9項目について検証・評価を行っています。検証用データとしては、学内での調査及び大学 IR コンソーシアム調査※結果を使用しています。

※大学 IR コンソーシアム調査（以下「大学 IR 調査」といいます。）

IR（Institutional Research）とは、大学の計画立案、政策形成、意思決定に寄与することを目的として、大学に関係する様々な情報を収集、分析する活動のことです。この IR を効果的に実施するために、全国 60 の国公立大学が加盟して「大学 IR コンソーシアム」を形成しています。このコンソーシアムでは、毎年、加盟大学の 1 年生及び上級生（3 年生）約 10 万人の学生を対象に、学修状況や満足度に関する共通設問アンケートを実施し、その結果を持ち寄って集計、分析しています。本学も毎年、全学生がこの調査に参加しており、約 90% の学生から回答を得ています。また、大学 IR コンソーシアムでは、2019 年度から卒業生調査にも取り組んでおり、本学では卒業後 5 年を経過した卒業生を対象に卒業生アンケートを実施しています。

① 学生の年間修得単位数

本学の卒業に必要な単位数は、大学 124 単位（看護学科 125 単位）、短期大学部 62 単位となっています。また、大学でもっと多くのことを学びたいと望む学生や将来の就職に向けて免許や資格の取得を目指す学生には、それに必要な単位を取得することができます。

本学では、過剰な履修をせず、各科目に対する十分な学習時間を確保するために、学生が 1 年間に履修科目として登録できる上限を、次のように定めています。

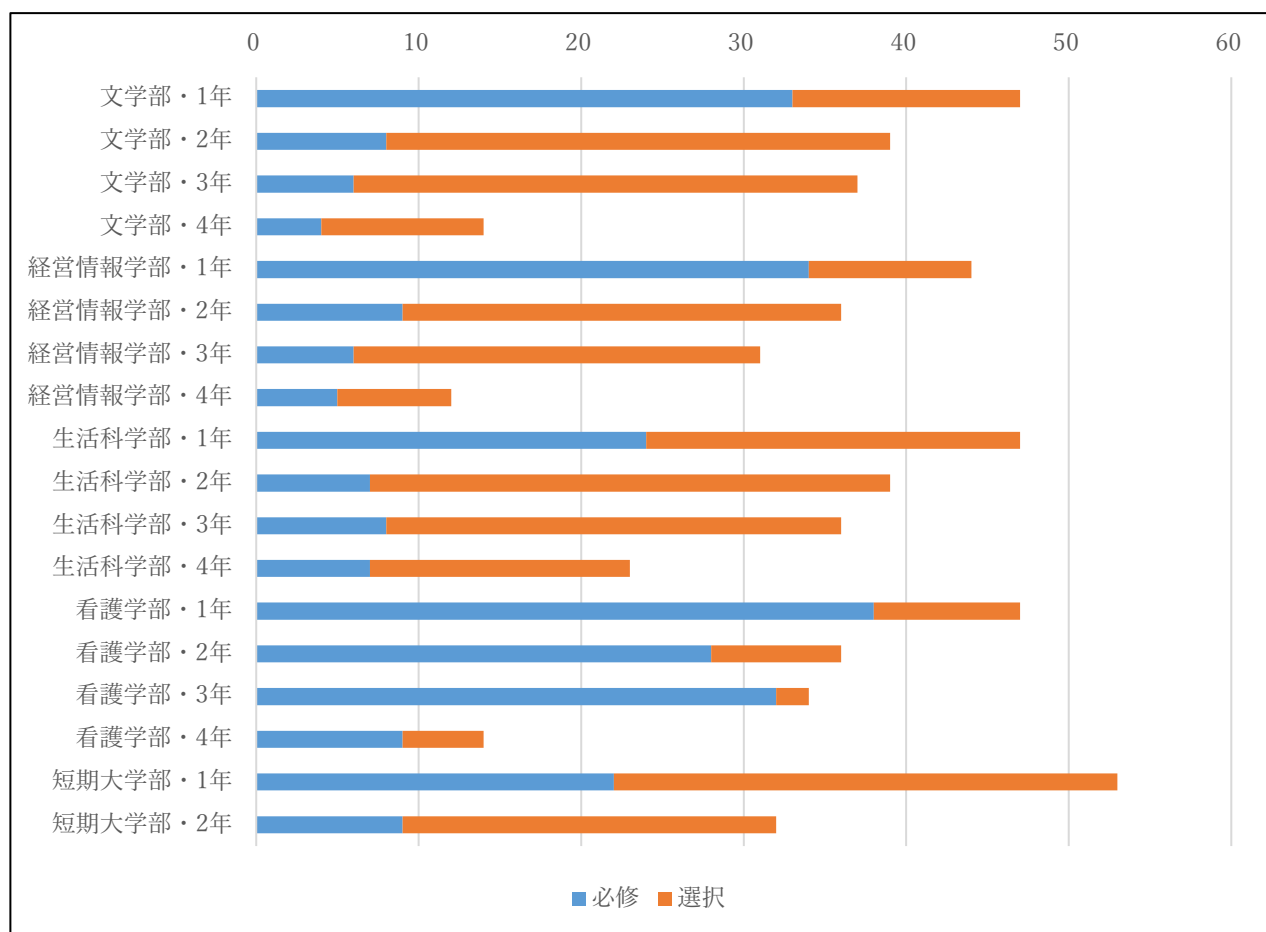
| 学部／学年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 |
|--------|-----|-----|--------|--------|
| 文学部 | 48 | 48 | 37（48） | 37（48） |
| 経営情報学部 | 48 | 48 | 48（48） | 36（48） |
| 生活科学部 | 48 | 48 | 48（48） | 41（48） |
| 看護学部 | 48 | 48 | 48（48） | 41（48） |
| 短期大学部 | 50 | 50 | | |

※（ ）内は編入学生

※ 免許資格科目等は上限単位数に含みません。

※ 成績優秀者等は、申請により適用が除外される場合があります。

- ・ 2022 年度の学部・学年別、年間平均修得単位数（必修・選択）は次のとおりです。



< 検証・評価結果 >

学部別の平均修得単位数は、卒業見込に必要な単位数を満たしている。しかし、学科別に見るとわずかながらではあるが、修得単位数が履修上限単位数を上回っている学科がある。また、修得単位数と GPA を比較すると、修得単位数の少ない学生の GPA が低い傾向があるため、配当年次の見直し及び十分な履修指導を行うなど、改善が必要である。

② 成績評価（GPA）について

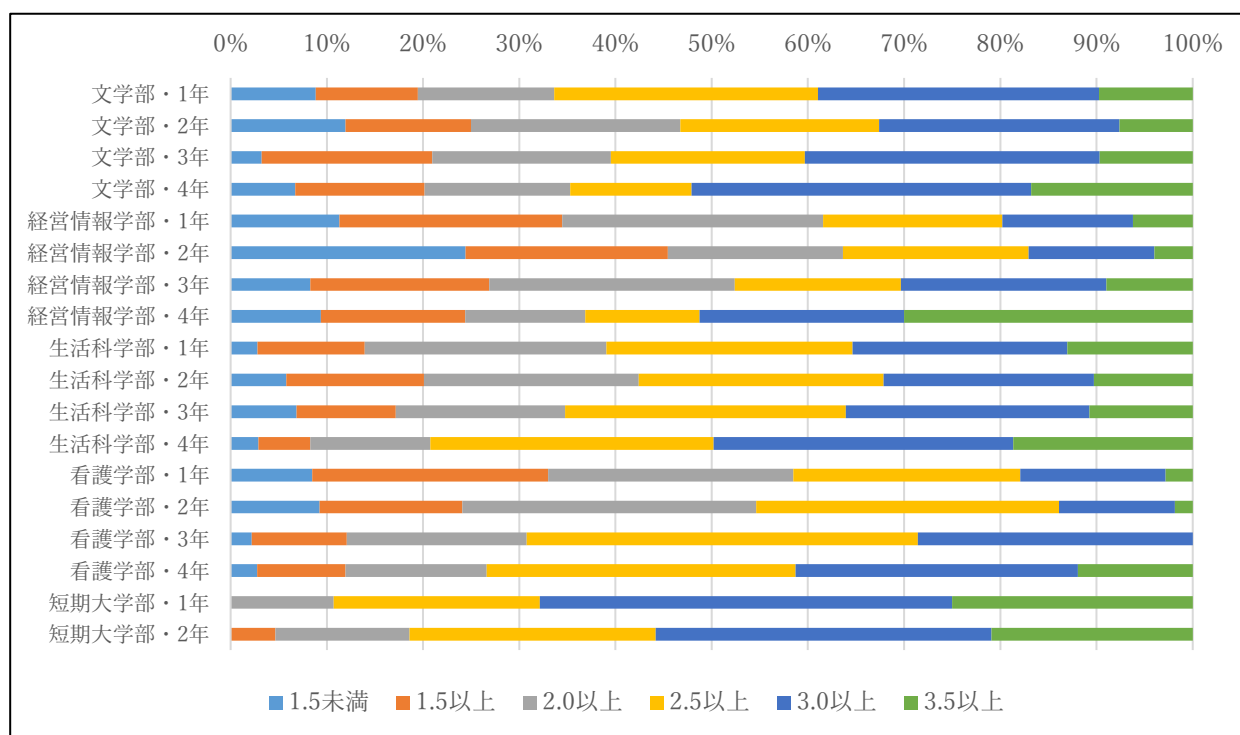
GPA（Grade Point Average）は、履修科目ごとに成績評価（秀、優、良、可、不可）と単位数に応じたポイントを付与し、その合計を履修総単位数で除することで、履修1単位当たりの成績を数値化したものです。具体的には、以下の計算式によって算出されます。

本学では、GPA を基に各種奨学金の採用や継続等の判定、交換留学生の選抜や表彰者等の選出をするほか、GPA が低い学生に対する学習指導や履修上限単位数を超える履修可否の判定などに活用しています。また、学外においても就職試験や助成金の選抜等で学生の学力や学習に対する姿勢を測る指標のひとつとして広く活用されています。

| 素点 | 評価 | QPI ※1 | QP ※2 | GPA |
|--------|----|--------|---------|--|
| 90～100 | 秀 | 4.00 | QPI×単位数 | $\frac{\text{QP の合計}}{\text{履修科目の単位数の合計}}$ |
| 80～89 | 優 | 3.00 | | |
| 70～79 | 良 | 2.00 | | |
| 60～69 | 可 | 1.00 | | |
| 60 未満 | 不可 | 0.00 | | |

※1 QPI … Quality Point Index ※2 QP … Quality Point

- ・ 2022 年度の学部別、GPA（単年度の GPA）の分布は次のとおりです。



< 検証・評価結果 >

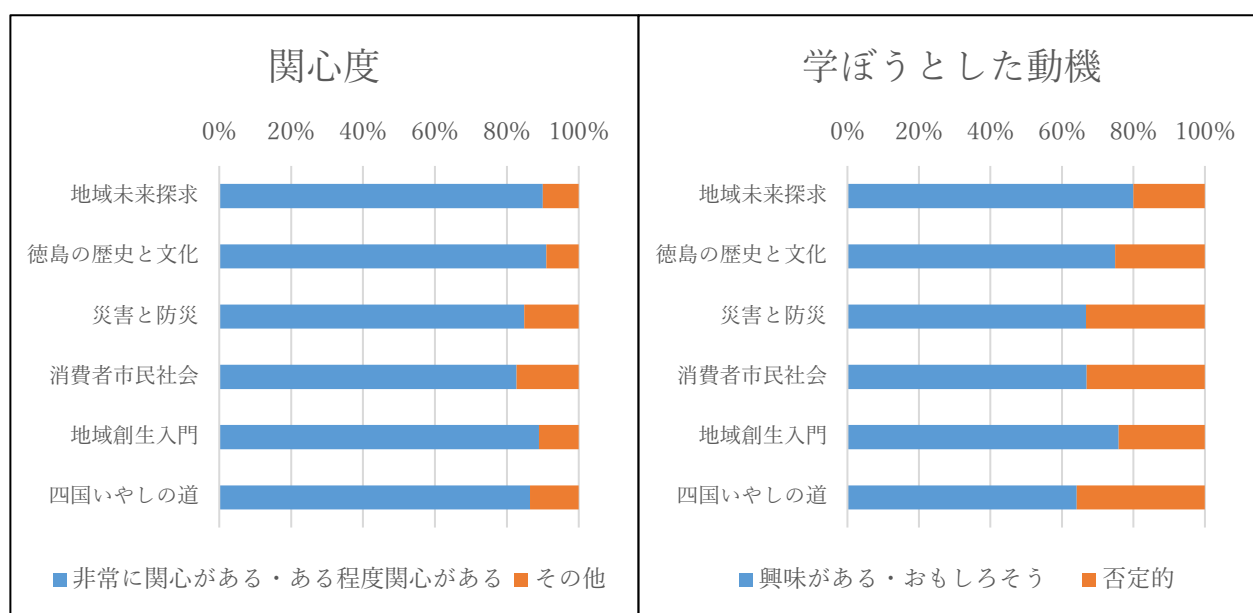
看護学部及び短期大学部では、基準とする 2019 年度を上回る結果となっているが、残り 3 学部については、学部別・学科別に見ても基準値を下回る結果となった。また、学部毎の GPA の平均値と分布を比較した場合、看護学部では厳しい評価、短期大学部では甘い評価となっており、GPA の有効活用の観点からも平準化に向けた取り組みが必要である。

③ 地域教育プログラムの関心度

地域教育プログラムは、これからの地域社会で地域創生を担う学生が、地域の課題を解決するための知識や技術を体系的に学ぶことができるよう開発された教育プログラムです。

この地域教育プログラムは、全学共通科目の地域連携科目、学生の自主活動を基にした自由科目、地域志向型の専門科目及び新『あわ学』への取り組みなどの地域研究で構成されています。

- ・ 2022 年度に「地域連携科目（全学共通科目）」を履修した学生のうち、地域連携科目について「非常に興味がある」「ある程度興味がある」と回答した者及びこれらの科目を学ぼうとした動機について「興味がある」「おもしろそう」と回答した者の割合は次のとおりです。



< 検証・評価結果 >

全学共通科目の中に「地域連携科目」として6科目が開講されている。これらの科目は、地域の課題を解決するための知識・技術を身に付け、授業を通じて地域教育への関心度を高めていくことをねらいとしている。

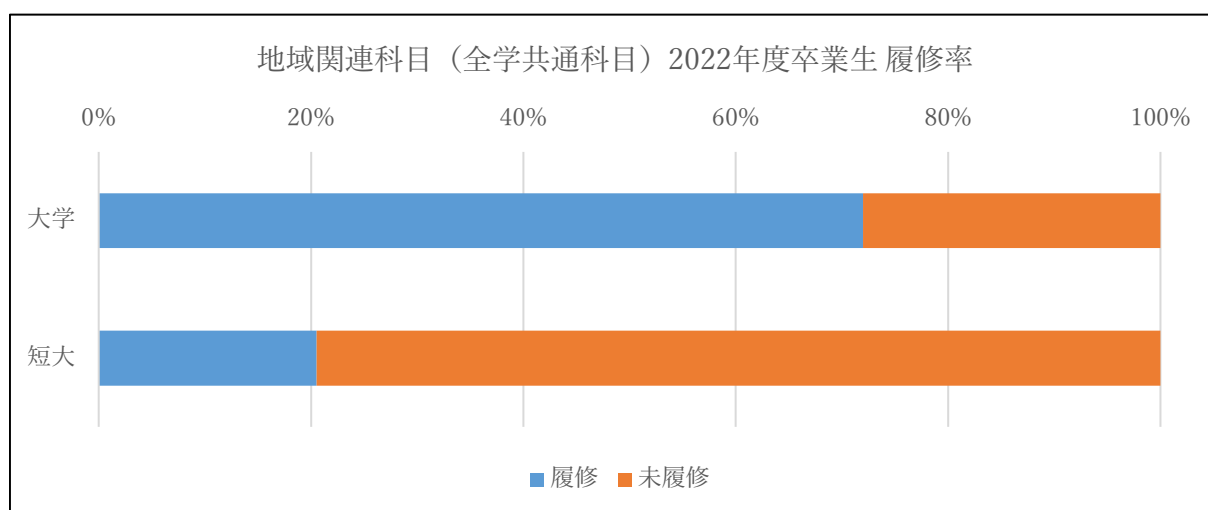
2022年度の学生対象のアンケート結果によると、受講後、地域教育に関心をもった学生は「地域未来探求」「徳島の歴史と文化」では9割以上、その他の4科目では8割以上であった。一部、目標値に届かない科目もあったが、全科目の平均値をみると、目標値である87.2%より0.3ポイント上回る結果となった。

また、「地域連携科目」を学ぶ動機として「興味がある」または「おもしろそう」と回答した学生の割合は高く5科目が目標値を上回る結果となっており、全科目の平均値でも目標値を5.2ポイントも上回る結果となった。

④ 地域教育科目の履修状況

- ・ 2022 年度の大学・短期大学部別の、地域連携科目（全学共通科目）の履修者数と 2022 年度卒業生におけるこれらの科目の履修率は次のとおりです。

| 科目名 | 開講期 | 履修者数 | | |
|----------|-----|-------|----------|------|
| | | 大学（人） | 短期大学部（人） | 計（人） |
| 地域未来探求 | 後期 | 73 | 4 | 77 |
| 徳島の歴史と文化 | 前期 | 102 | 13 | 115 |
| 徳島の歴史と文化 | 後期 | 128 | 2 | 130 |
| 災害と防災 | 後期 | 124 | 4 | 128 |
| 消費者市民社会 | 前期 | 149 | 7 | 156 |
| 地域創生入門 | 前期 | 85 | 5 | 90 |
| 四国いやしの道 | 後期 | 156 | 3 | 259 |
| 計（人） | | 817 | 38 | 855 |



$$\text{※地域関連科目履修率} = \frac{\text{在学中に地域連携科目を1科目以上履修した卒業生の人数}}{\text{全卒業生数}}$$

< 検証・評価結果 >

地域連携科目は、いずれの科目も定員に上限を設け、抽選により受講者を決定している。2022 年度は「消費者市民社会」と「地域創生入門」の 2 科目で目標値を達成した。「地域未来探求」と「四国いやしの道」では、目標値をわずかに下回る受講者数となったが、これは昨年度同様、履修登録後に専門科目との重複や上限単位の超過等の理由から履修取消しをする学生がいたためである。一方、「徳島の歴史と文化」「災害と防災」では、目標値を大幅に下回った。これは、新型コロナウイルス感染症対策のため教室の収容人数を 50%以下とする措置が 2022 年度も引き続きとられ、両科目とも定員数を目標値である 150 人まで増加できなかったためである。2023 年度からは、両科目の受講定員をそれぞれ 150 名とし、履修者数の増を図る予定である。

⑤ 全学的なクラブ・サークルへの参加状況

環境や考え方の異なった者同士がクラブやサークル等に参加することで、自由と規律、義務と責任を重んずる中で社会生活を営むための基礎がつくられ、人間関係を育成し、学生生活をより充実したものにします。

本学には、体育系 33、文科系 28 のクラブがあります。また、クラブの他に同好会等のサークルもあり、活発な課外活動を展開しています。

- ・ 2022 年度の、大学・短期大学部、体育系・文化系別の、クラブ・サークルへの参加者数と参加率は次のとおりです。

| | 体育系 | | 文化系 | | 計 | |
|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
| | 参加者数(人) | 参加率 | 参加者数(人) | 参加率 | 参加者数(人) | 参加率 |
| 大学 | 620 | 25.4% | 533 | 21.8% | 1,153 | 47.2% |
| 短期大学部 | 30 | 9.1% | 39 | 11.9% | 69 | 21.0% |
| 計 | 650 | 23.5% | 609 | 22.1% | 1,259 | 45.6% |

< 検証・評価結果 >

課外活動への参加率は、大学が 47.2%、短期大学部が 21.0%であり、昨年度より大学は 1.5 ポイント減、短期大学は 3.0 ポイントの増となった。コロナ禍でさまざまな活動を対面で実施することが厳しいで状況あった影響が残っていることに加え、多くの体育系クラブが目標とする四国地区大学総合体育大会（四国インカレ）が 2022 年度は中止となったことが原因として挙げられる。

課外活動参加率向上のため、3 年ぶりに新入生に対しクラブオリエンテーションを開催し、各クラブやサークルの紹介を行った。次年度以降も学生が積極的にクラブ・サークル活動に参加するようクラブオリエンテーションの実施や芳藍祭におけるクラブ・サークルの展示や活動報告の取り組みを継続していく。

⑥ ボランティア活動、地域貢献活動の状況

本学では、学生の地域貢献活動やボランティア活動への積極的な参加を促すため、学生一人ひとりに『SUDAchi カード』を発行し活動時間を記録しています。『SUDAchi カード』に記録された活動時間が 60 時間や 120 時間（短期大学部は 30 時間や 60 時間）に達し、活動に関するレポートや報告書を提出して内容が認められれば、それぞれ「地域貢献・ボランティア活動Ⅰ」、「地域貢献・ボランティア活動Ⅱ」といった地域教育関連科目（自由科目）の単位が認定されます。

また、学生ボランティアコーディネーターとスーパーバイザーの教員によって自主的に運営されている『学生ボランティア活動支援室』もあり、『SUDAchi カード』を発行・運用する地域教育・連携センターと連携し、学生がボランティア活動をスムーズに展開できるよう、地域社会におけるニーズと活動したい学生のシーズをコーディネートしています。

学生によるボランティア活動の具体例としては、「人とサル共生プロジェクト～木頭ゆずちぎりたい（隊）!」「徳島県議会議事堂で書道パフォーマンス」「勝浦さくらまつり（運営ボランティア）」といった活動が挙げられます。

- ・ 2022 年度在学生の、大学・短期大学部別の、SUDAchi カード発行者数、ボランティア活動参加者数、ボランティア活動総時間数、年間一人当たり平均時間数は次のとおりです。

| | 大学 | 短期大学部 |
|--------------------|-------|-------|
| SUDAchi カード発行者数（人） | 112 | 23 |
| ボランティア活動参加者数（人） | 48 | 10 |
| ボランティア活動総時間数（時間） | 1,488 | 112 |
| 年間一人当たり平均時間数（時間） | 31.00 | 11.20 |

- ・ 2022 年度在学生の大学・短期大学部別の地域教育関連科目（自由科目）の単位認定者数は次のとおりです。

| | 大学 | 短期大学部 |
|-------------------|----|-------|
| 地域貢献・ボランティア活動Ⅰ（人） | 8 | 1 |
| 地域貢献・ボランティア活動Ⅱ（人） | 3 | 0 |
| 計 | 11 | 1 |

< 検証・評価結果 >

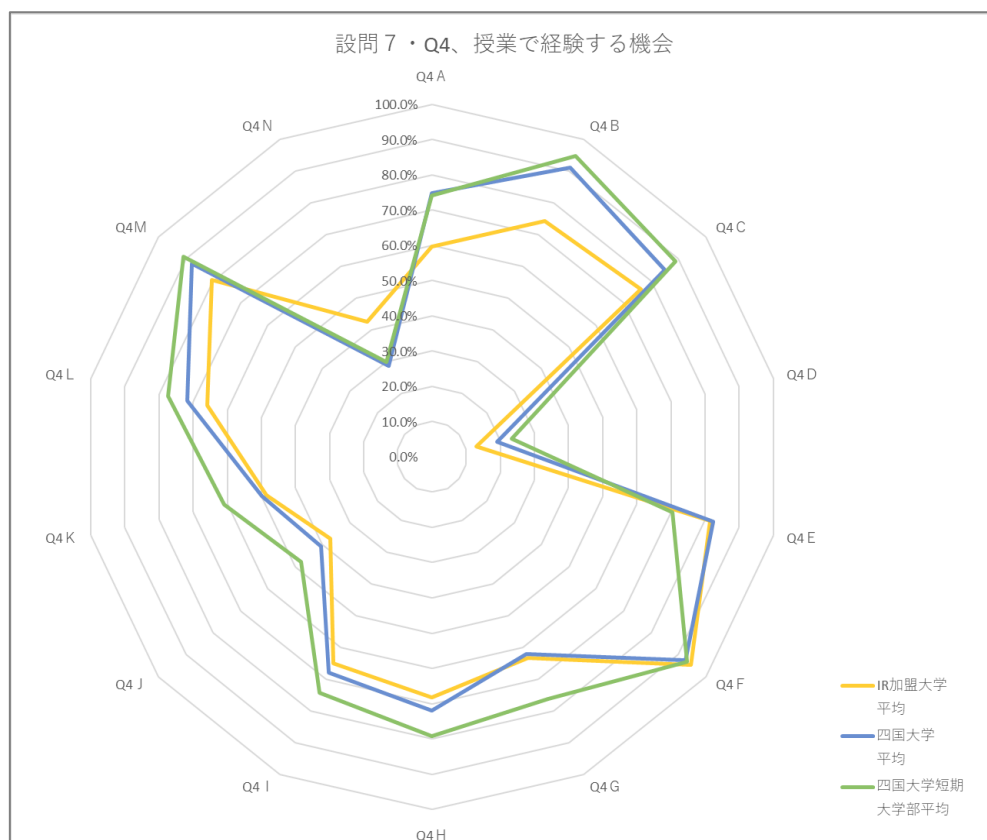
依然としてコロナ禍によるボランティア活動制限の影響を受けているため、2019 年度のボランティア活動参加者 126 人、ボランティア活動時間数 2,127 時間に対し、2022 年度は参加者 58 人、活動時間数 1,600 時間と地域貢献活動への参加が難しかった。

単位認定割合についても 2019 年度の 32.54%を 11.85 ポイント下回る 20.69%となった。

⑦ 学修状況調査（IR 調査）

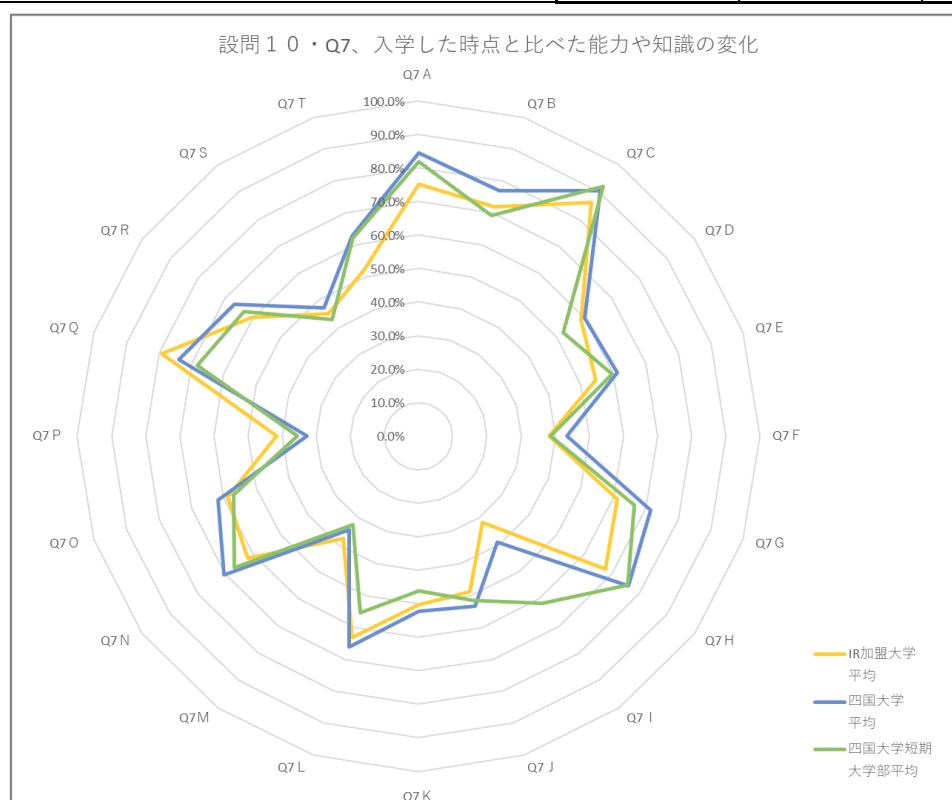
- ・ 2022 年度の大学 IR 調査における、大学・短期大学部別の、Q4「あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

| 設 問 | IR 加盟 大学 | 大学 | 短期 大学部 |
|----------------------------------|-------------|-------|-----------|
| A 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ | 64.3% | 74.4% | 91.1% |
| B 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ | 76.0% | 91.2% | 96.8% |
| C 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する | 77.5% | 86.5% | 90.4% |
| D 授業の一環でボランティア活動をする | 15.5% | 19.1% | 30.7% |
| E 学生自身が文献や資料を調べる | 81.3% | 80.7% | 66.9% |
| F 定期的に小テストやレポートが課される | 94.6% | 94.6% | 90.1% |
| G 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する | 62.3% | 63.8% | 75.1% |
| H 学生が自分の考えや研究を発表する | 69.8% | 75.8% | 76.6% |
| I 授業中に学生同士が議論をする | 67.3% | 68.8% | 75.3% |
| J 授業で検討するテーマを学生が設定する | 40.4% | 42.3% | 44.9% |
| K 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる | 48.5% | 52.9% | 66.2% |
| L 取りたい授業を履修登録できた | 63.6% | 74.7% | 82.5% |
| M 出席することが重視される | 80.3% | 86.8% | 90.8% |
| N TA や SA などの授業補助者から補助を受ける | 45.9% | 27.5% | 37.7% |



- ・ 2022 年度の大学 IR 調査における、大学・短期大学部別の、Q7「入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

| 設 問 | IR 加盟大学 | 大学 | 短期大学部 |
|----------------------|---------|-------|-------|
| A 一般的な教養 | 75.2% | 84.6% | 82.0% |
| B 分析力や問題解決能力 | 72.0% | 76.9% | 69.3% |
| C 専門分野や学科の知識 | 86.1% | 90.5% | 92.1% |
| D 批判的に考える能力 | 58.9% | 60.1% | 52.4% |
| E 異文化の人々に関する知識 | 54.6% | 61.2% | 59.6% |
| F リーダーシップの能力 | 38.3% | 43.5% | 38.7% |
| G 人間関係を構築する能力 | 61.2% | 71.5% | 66.5% |
| H 他の人と協力して物事を遂行する能力 | 67.6% | 76.0% | 75.7% |
| I 異文化の人々と協力する能力 | 31.9% | 39.1% | 61.7% |
| J 地域社会が直面する問題を理解する能力 | 48.7% | 53.3% | 51.6% |
| K 国民が直面する問題を理解する能力 | 50.2% | 52.2% | 46.2% |
| L 文章表現の能力 | 63.1% | 66.2% | 55.4% |
| M 外国語の運用能力 | 37.6% | 34.5% | 32.6% |
| N コミュニケーションの能力 | 62.0% | 70.5% | 66.7% |
| O プレゼンテーションの能力 | 58.9% | 61.9% | 57.0% |
| P 数理的な能力 | 41.6% | 32.7% | 35.6% |
| Q コンピュータの操作能力 | 79.2% | 74.0% | 68.2% |
| R 時間を効果的に利用する能力 | 60.4% | 66.9% | 63.4% |
| S グローバルな問題の理解 | 45.1% | 47.2% | 42.9% |
| T 卒業後に就職するための準備の度合い | 52.0% | 62.9% | 62.0% |



<検証・評価結果>

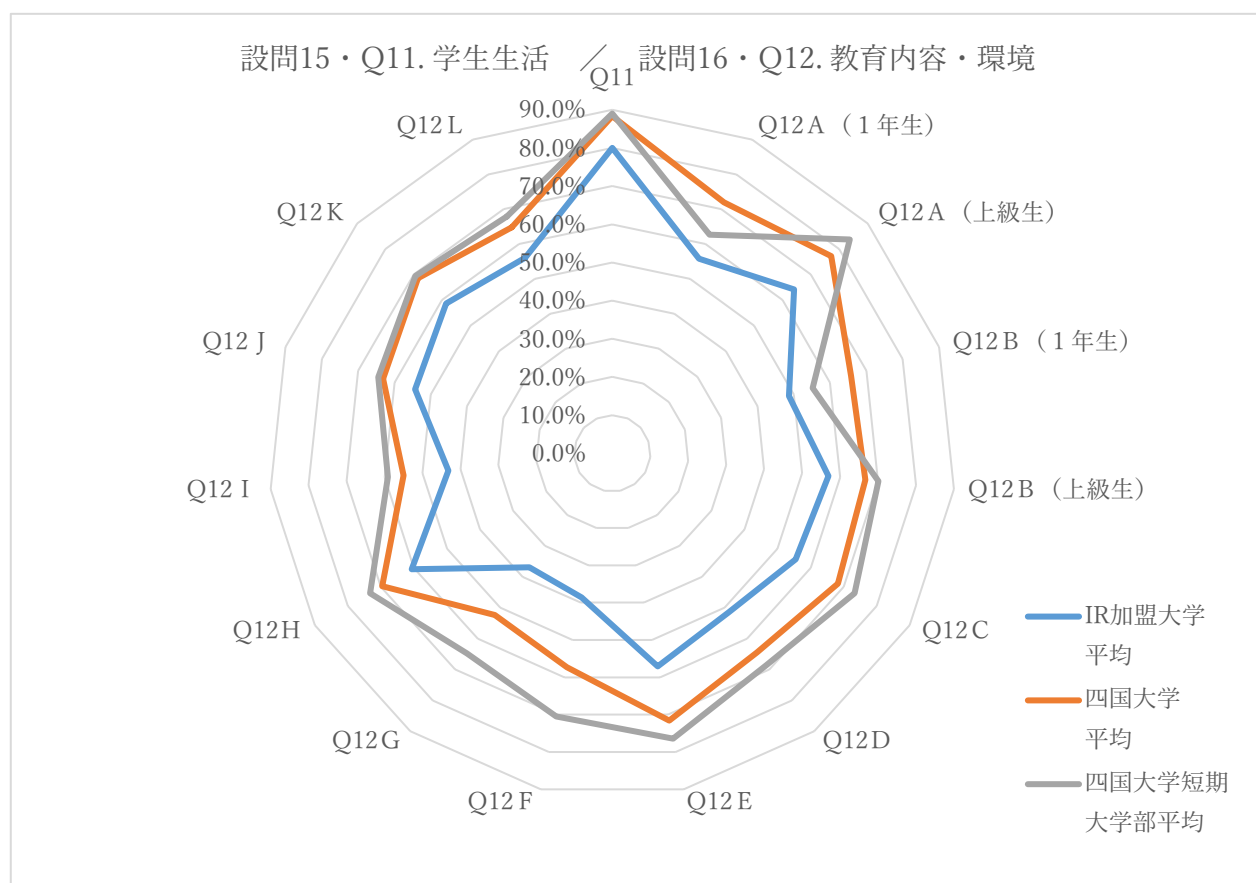
34 の設問で、IR 加盟大学の平均と比較して、肯定的回答率が5ポイント以上上回っている項目は、大学では15項目（昨年度14項目）、短期大学部では17項目（昨年度16項目）となっている。また、5ポイント以上下回っている項目は、大学では3項目（昨年度4項目）、短期大学部では7項目（昨年度6項目）となっている。

各学科・専攻において分析・評価を行い、改善に向けた取り組みが必要である。

⑧ 学生満足度調査（IR 調査）

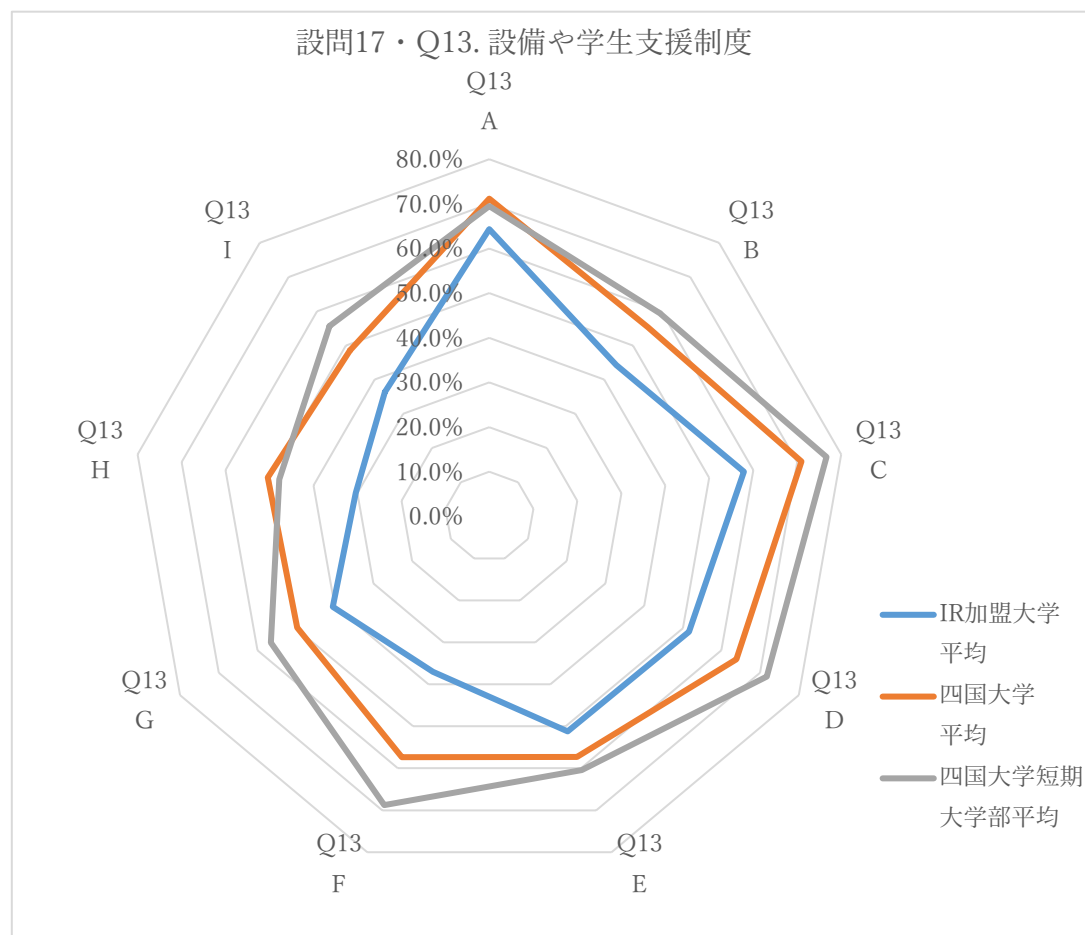
- ・ 2022 年度の大学 IR 調査における、大学・短期大学部別の、Q11「あなたの学生生活は充実していますか」及び Q12「あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

| 設 問 | IR 加盟 大学 | 大学 | 短期 大学部 |
|--|-------------|-------|-----------|
| 11 あなたの学生生活は充実していますか。 | 80.0% | 88.3% | 89.0% |
| 12A（1 年生）共通教育あるいは教養教育の授業 | 55.8% | 71.9% | 62.7% |
| 12A（上級生）専門教育あるいは所属学科の授業 | 64.1% | 77.2% | 83.7% |
| 12B（1 年生）初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど） | 48.7% | 65.8% | 55.2% |
| 12B（上級生）2 年次または 3 年次を対象としたゼミ（演習）などの教育内容 | 56.9% | 66.7% | 70.1% |
| 12C 授業の全体的な質 | 55.5% | 68.3% | 73.3% |
| 12D 日常生活と授業内容との関連 | 51.6% | 64.5% | 68.7% |
| 12E 将来の仕事と授業内容の結びつき | 57.1% | 71.6% | 76.4% |
| 12F 教員と話をする機会 | 38.6% | 57.2% | 70.4% |
| 12G 学習支援や個別の学習指導 | 36.9% | 52.4% | 64.8% |
| 12H 他の学生と話をする機会 | 60.7% | 69.6% | 73.3% |
| 12I 大学のなかでの学生同士の一体感 | 43.2% | 55.0% | 59.1% |
| 12J 多様な考え方を認め合う雰囲気 | 54.3% | 63.1% | 64.5% |
| 12K 大学での経験全般について | 58.6% | 68.5% | 69.4% |
| 12L 1 つの授業を履修する学生数 | 56.1% | 64.8% | 67.9% |



- ・ 2022 年度の大学 IR 調査における、大学・短期大学部別の、Q13「あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

| 設 問 | IR 加盟 大学 | 大学 | 短期 大学部 |
|------------------------------------|-------------|-------|-----------|
| A 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス） | 64.3% | 71.2% | 69.5% |
| B 実験室の設備や器具 | 44.3% | 55.3% | 59.4% |
| C コンピュータの施設や設備 | 57.9% | 71.0% | 76.7% |
| D コンピュータの訓練や援助 | 51.6% | 63.9% | 71.7% |
| E インターネットの使いやすさ | 51.2% | 57.3% | 60.4% |
| F 奨学金などの学費援助の制度 | 37.0% | 57.4% | 68.8% |
| G 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談） | 40.5% | 49.7% | 56.5% |
| H レクリエーション施設（ジムの設備など） | 30.4% | 50.4% | 47.8% |
| I キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談） | 36.4% | 48.6% | 55.7% |



< 検証・評価結果 >

大学、短期大学部ともに IR 加盟大学の肯定的回答率の平均を 24 項目すべてで上回っている。特に「将来の仕事と授業内容の結びつき」「教員と話す機会」「奨学金などの学費援助制度」「レクリエーション施設」に対する評価が 15～30 ポイント高い結果となっている。

しかし、個別に見た場合、平均を下回る項目がある学科・専攻もあるため、評価・検証を行い、さらなる満足度の向上に努めたい。

⑨ 休学者、退学者の状況

疾病等の理由で2か月以上就学することができない場合、願い出により休学することができます。休学が認められる期間は1年（特別な理由がある場合は2年）まで、通算で大学は4年、短期大学部は2年までとされています。

卒業を待たずに大学をやめるケースとしては、主として本人の意思によるもの（退学）と、授業料等の未納、在学期間や休学期間の満了等によるもの（除籍）があります。なお、授業料等の未納により除籍になった場合でも、2年以内に除籍理由が解消すれば復籍することができます。

・2022年度の大学・短期大学部別の休学者数、休学率及び主な理由は次のとおりです。

| 休学 | 大学 | 短期大学部 |
|---------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 休学者数（人） | 73 | 6 |
| 休学率 | 2.9% | 1.7% |
| 主な理由 | ①就学意欲の低下 ②進路変更考慮中 ③病気・怪我等療養 | ①進路変更（就職） ②就学意欲の低下 ③進路変更考慮中 |

・2022年度の大学・短期大学部別の退学・除籍者数、退学・除籍率と主な理由は次のとおりです。

| 退学・除籍 | 大学 | 短期大学部 |
|------------|------------------------------------|----------------------|
| 退学・除籍者数（人） | 55 | 14 |
| 退学・除籍率 | 2.2% | 3.9% |
| 主な理由 | ①進路変更（進学） ②就学意欲の低下 ③進路変更（就職） | ①進路変更（就職） 就学意欲の低下 |

< 検証・評価結果 >

休学率、退学率それぞれ2.0%以下と目標を定めているが、休学率は、文学部、経営情報学部、生活科学部の3学部において、上限目標を超過している。理由としては「就学意欲の低下」や「進路変更考慮中」など学習面に関することが多い。しかし、「海外留学」「海外研修」など積極的な理由での休学者も一定数いるため、すべてがマイナスの理由での休学というわけではない。また、退学率についても文学部、経営情報学部、短期大学部の3学部で上限目標を超えており、理由は「進路変更（進学）」「進路変更（就職）」となっている。

休学・退学とも、学科・専攻内で情報共有を図りながら丁寧な学生指導を行う必要がある。

【卒業時・卒業後の検証・評価について】

本学卒業時にディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を満たす人材となったかについて、次の6項目について検証・評価しています。検証用データとしては、学内での調査及び大学 IR 調査の卒業生調査結果を使用しています。

① 修業年限での卒業率

修業年限は、大学は4年（3年次編入学生は2年）、短期大学部は2年（長期履修学生は3年又は4年）で、在学期間は修業年限の2倍までとされています。

大学に3年以上在学し、卒業要件の単位を優秀な成績で修得した場合には、4年未満の在学での卒業（早期卒業）が認められる場合があります。

・2022年度卒業生における、学部別の、修業年限内での卒業生数、卒業率（※）は次のとおりです。

（※卒業率＝修業年限内での卒業生数／修業年限前の入学生数）

| 学部 | 卒業生数（人） | 卒業率 |
|--------|---------|-------|
| 文学部 | 112 | 90.3% |
| 経営情報学部 | 151 | |
| 生活科学部 | 235 | |
| 看護学部 | 106 | |
| 短期大学部 | 140 | 91.0% |

<検証・評価結果>

修業年限内での卒業率について、大学では、2017年～2019年度の平均87.5%に対して3年間毎年上回り、向上している。短期大学部においては、3か年平均に対して2020年度に下回ったものの、以降はほとんどの学科で3か年平均を上回っている。学科別に見ると、国際文化学科の卒業率が低い、これは海外留学や海外研修に参加するために休学する者がいるためであると考えられる。

② 学位授与率

本学の卒業生には、その学部、学科・専攻に従って次の学位が授与されます。

| 学部 | 学科・専攻 | 学位 |
|--------|------------------|-----------------------|
| 文学部 | 日本文学科 | 学士（日本文学） |
| | 書道文化学科 | 学士（書道文化学） |
| | 国際文化学科 | 学士（国際文化学） |
| 経営情報学部 | 経営情報学科 | 学士（経営情報学） |
| | メディア情報学科 | 学士（メディア情報学） |
| 生活科学部 | 人間生活科学科 | 学士（人間生活科学） |
| | 管理栄養士養成課程／健康栄養学科 | 学士（保健栄養学） |
| | 児童学科 | 学士（児童学） |
| 看護学部 | 看護学科 | 学士（看護学） |
| 短期大学部 | ビジネス・コミュニケーション科 | 短期大学士（ビジネス・コミュニケーション） |
| | 人間健康科 食物栄養専攻 | 短期大学士（食物栄養） |
| | 人間健康科 介護福祉専攻 | 短期大学士（介護福祉） |
| | 幼児教育保育科 | 短期大学士（幼児教育保育） |
| | 音楽科 | 短期大学士（音楽） |

・2022年度の卒業学年在籍者における、学部別の学位授与数、学位授与率（※）は次のとおりです。

（※学位授与率＝卒業生数／卒業学年在籍者）

| 学部 | 学位授与者数（人） | 学位授与率 |
|--------|-----------|-------|
| 文学部 | 112 | 93.4% |
| 経営情報学部 | 151 | |
| 生活科学部 | 235 | |
| 看護学部 | 106 | |
| 短期大学部 | 152 | 97.8% |

<検証・評価結果>

学位授与率については、大学 93.4%と 2017 年～2019 年の 3 か年平均から 1.5 ポイント下回っており、短期大学部では 93.3%と 3 か年平均の 94.5%から 1.2 ポイント下回っている。本学には留年制度がなく、単位が未修得であっても卒業学年まで進級することができるため、丁寧な履修指導と修学支援を行うことにより、学位授与率の向上につなげていかなければならない。

③ 就職希望率、就職率

本学では、4年間あるいは2年間で望ましい職業観や勤労観を身につけ、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるため、1・2年次の早い段階からキャリア教育科目の開設、就業力育成セミナーの開催など、積極的なキャリア教育を実施しています。

また、就職ガイダンス、学内企業研究会、就活トライツアー等の就職支援イベントを開催するほか、個別面談や模擬面接等によるマンツーマンの指導を頻繁に実施するなど、学生一人ひとりの志望、適性に応じた手厚い「個別就職支援」を展開しています。

・2022年度卒業生における、大学・短期大学部別の就職希望者数、希望率(※1)及び就職者数、就職率(※2)は次のとおりです。

(※1 希望率＝就職希望者数／卒業生数)

(※2 就職率＝就職者数／就職希望者数)

| 科目名 | 大学 | | 短期大学部 | |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| | 人数(人) | 率 | 人数(人) | 率 |
| 就職希望者数・希望率 | 549 | 90.6% | 128 | 83.1% |
| 就職者数・就職率 | 535 | 97.4% | 126 | 98.4% |

< 検証・評価結果 >

2022年度の就職率については、大学では目標値97.8%に対して、97.4%と横ばい、短期大学部については、目標値97.6%に対して98.4%とやや上昇している状況である。しかしながら、就職希望率については、大学の目標値93.7%に対して90.6%で3.1%減少、短期大学部では目標値90.7%に対して83.1%と大きく低下しており、今後の課題が明確になってきている。この結果については、学部生の進学率の上昇や短期大学部生の編入学の増加なども要因の一つとして考えられる。

④ 進学率

大学院への進学を希望する学生や、大学への編入学を希望する短期大学部生には、学修支援センターにおいて、積極的な情報提供や学修支援を行っています。特に、本学大学院への進学者には入学金の減免を行っています。また、四国大学への編入学を希望する短期大学部生には、学生一人ひとりの進路希望に応じた個別プログラムにより1年次から支援を行い、編入学後には奨励金を給付する『学内編入学支援プログラム』を実施しています。

・2022年度卒業生における、大学・短期大学部別の、進学者数（進学希望者数）、進学率(※)は次のとおりです。

(※進学率=進学者数/卒業生数)

| 科目名 | 大学 | | 短期大学部 | |
|------------------|-------|------|-------|------|
| | 人数(人) | 率 | 人数(人) | 率 |
| 進学者数（進学希望者数）・進学率 | 26 | 4.3% | 6 | 3.9% |

<検証・評価結果>

臨床心理学、学校教育学、看護学分野への大学院進学者20名をはじめ、より専門的で高度な研究を希望する学生が増えている。また、短期大学部から大学への編入学や職業専門学校への進学者も増加傾向にある。

その結果、大学・短期大学部の合計目標値である3.2%を1ポイント超える4.2%の進学率となった。

⑤ 留学の実績

本学では、学生が留学によって国際感覚を育み真の国際人として活躍できるよう、長期留学生給付金、交換留学生特別奨学金等の経済的な支援や積極的な海外協定校の開拓、また、国際課からの手厚いサポート等により学生の海外留学を奨励・支援しています。

・ 2022 年度の海外の協定校は次のとおりです。

| 国名 | 協定大学数 | 大学名 |
|----------|-------|--|
| アメリカ合衆国 | 2 | サギノーバレー州立大学 マーセッドカレッジ |
| イギリス | 1 | ウルバーハンプトン大学 |
| カナダ | 1 | カルガリー大学 |
| 中国 | 3 | 浙江大学（大学院） 湘潭大学※ 湖南財政経済学院 |
| 台湾 | 2 | 銘伝大学 大葉大学 |
| オーストラリア | 3 | サンシャインコースト大学 サザンクイーンズランド大学 サザンクロス大学※ |
| ニュージーランド | 2 | リンカーン大学 マッシー大学 |
| キルギス共和国 | 1 | ビシケク国立大学 |
| ジョージア | 1 | トビリシ自由大学 |
| ベトナム | 1 | ハノイ国家大学外国語大学 |
| 大韓民国 | 1 | 烏山大学校 |
| フィリピン | 1 | サンカルロス大学 |

※ DDP（ダブルディグリープログラム）

外国の大学との協定に基づく学生の相互留学と単位互換により双方が学位を授与するプログラム。

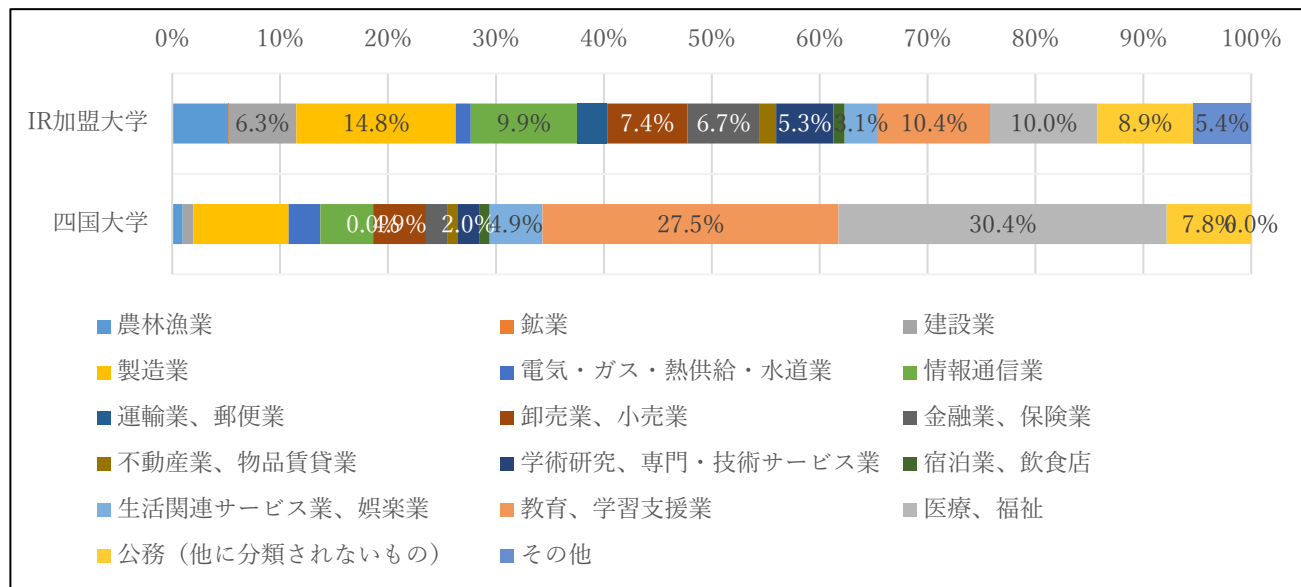
<検証・評価結果>

2022 年度は、海外との入国制限が徐々に緩和され、2023 年 3 月にオーストラリアのサザンクイーンズランド大学への看護研修に 18 名（2 年生 9 名、3 年生 9 名）を派遣したが、目標値としている 23.3 人を上回ることはできなかった。今後は、協定大学等への個人留学を推進するとともに国際文化学科の台湾・オーストラリア国際研修等の学科単位での派遣や全学で募集をする韓国文化研修（烏山大学）等への派遣を推進していきたい。

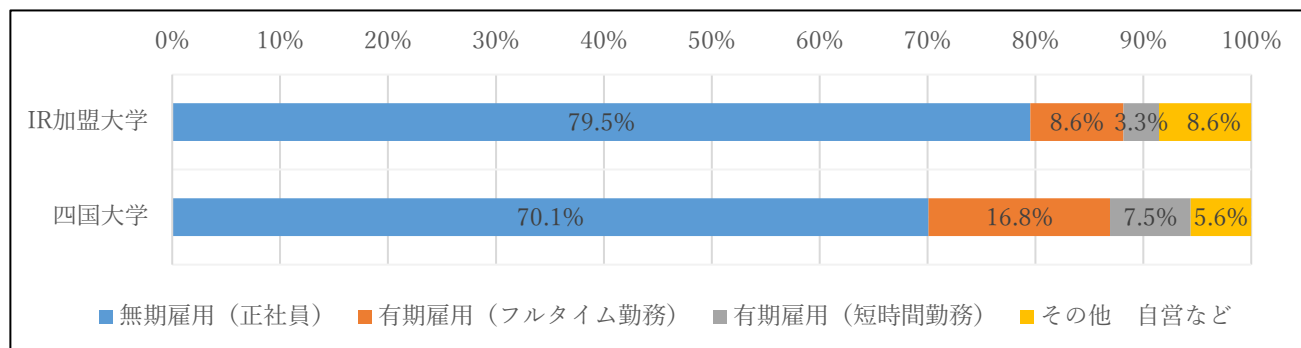
⑥ 卒業生調査（IR 調査）

2022 年度に卒後 5 年の卒業生を対象として実施した大学 IR 調査（卒業生調査）による、卒業 5 年後の就労状況は次のとおりです。（データ数の関係で大学と短期大学部のデータを集計しています。）

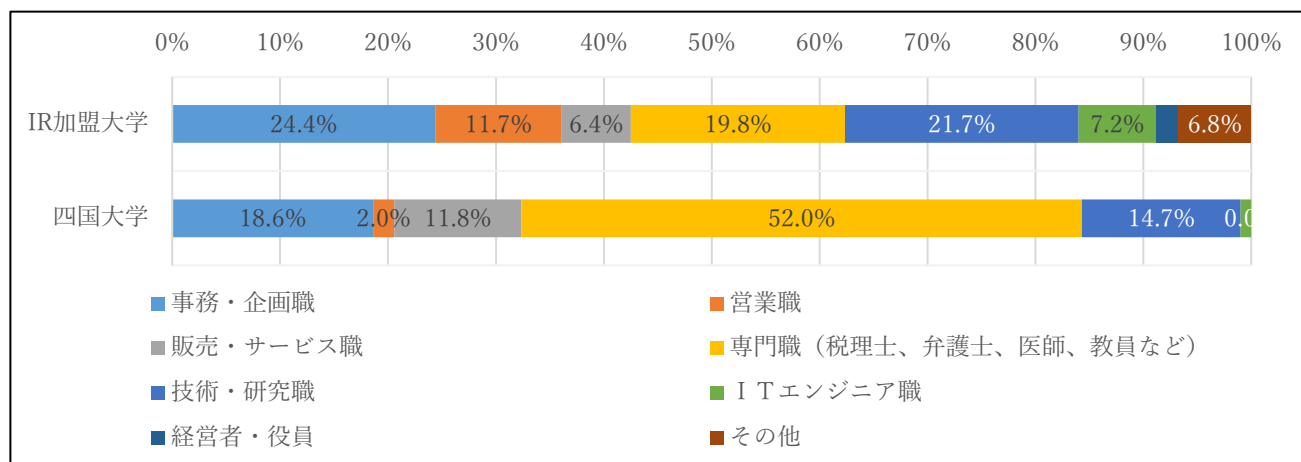
（現職の勤務先の業種）



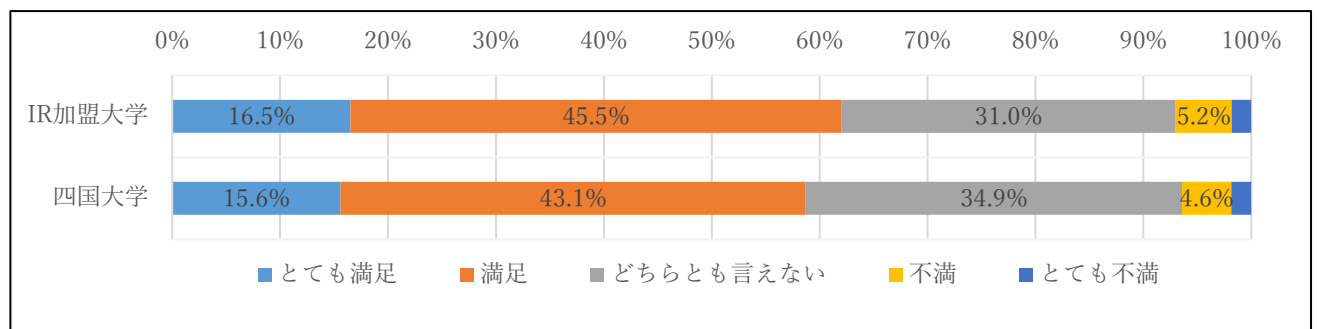
（現職の就業形態）



（現職の勤務先の職種）



(キャリアパスの満足度)



< 検証・評価結果 >

キャリアパスに満足している卒業生の割合は、IR 加盟大学の 62.0%に対し、本学は 58.7%（大学 60.6%、短期大学部 50%）と下回ってはいるものの、半数以上の卒業生が満足しているといえる。